



2021年夏季ボーナスアンケート調査（宮崎県内） ～インターネットアンケート調査～

当研究所は、宮崎県内における消費動向や生活実感などを探るため、ボーナスアンケート調査を実施している。今回、県内の給与所得者等を対象にインターネットアンケートによる夏季ボーナス調査を実施し、結果をまとめた。

【調査結果の概要】

1. 夏季ボーナスは、全体の63.7%が「支給される」と回答した。増減見込みは「同じくらい」が前年より増加し、「増えそう」「減りそう」が減少した。
2. ボーナスの見込み額は「10万円以上30万円未満（46.5%）」が最も多い。
3. 使いみちは「貯蓄（63.4%）」、貯蓄の目的は「家計の補充（45.0%）」、貯蓄の方法は「流動性預貯金（56.9%）」が最も多い。
4. クレジット・ローン返済は、「自動車（48.6%）」が最も多い。
5. ボーナスでの購入予定品は「衣料品（51.4%）」が最も多く、買物予定先は「通販・ネット販売（51.4%）」がトップだった。
6. 最近1年間の県外〔九州5市（※）〕での買物頻度では、回数が「1回」、交通手段では「乗用車」が最も多かった。
7. 今後の旅行・レジャーの行き先は、「九州内（除く沖縄）」が最も多い。
8. 生活状況は「変わらない（63.5%）」が最も多いものの、DIは「▲24.3」と前年比7.5ポイント（以下「P」）悪化した。
9. 品目別の物価状況DIは「光熱水道費（+34.2）」が最も高い。
10. 新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）の状況下における買い物の変化では「必ずマスクを着用して買物をしている（71.1%）」が最も多い。

※ 福岡市、北九州市、大分市、熊本市、鹿児島市の5市

調査の実施要領

調査時期：2021年5月17日（月）～5月23日（日）

調査対象：宮崎県内の給与所得者等

調査方法：インターネットアンケート（マクロミル社）

回答者数：523名

回答者の属性（単位：人、%）

年代別	人数	構成比	世帯別			人数	構成比	性別	人数	構成比	職業			人数	構成比
20歳代以下	115	22.0	独身		242	46.3	男性	261	49.9	会社員	469	89.7			
30歳代	146	27.9	既婚	子供有り	247	47.2	女性	262	50.1	公務員	54	10.3			
40歳代	132	25.2		子供無し	34	6.5	合計	523	100.0	合計	523	100.0			
50歳代以上	130	24.9	合計		523	100.0									
合計	523	100.0													

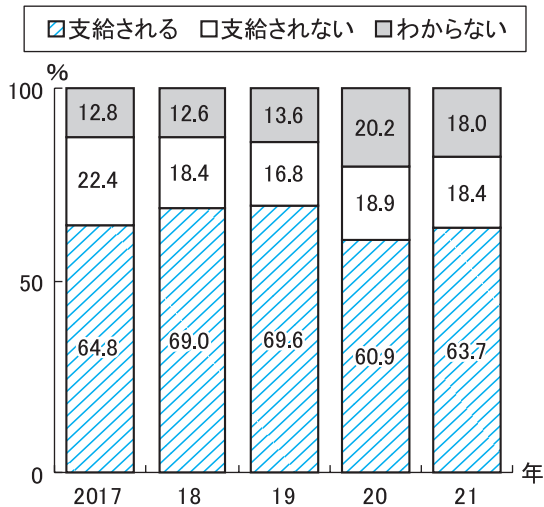
※本レポートの図表は、四捨五入の関係で、内訳の総和と合計が必ずしも一致しない

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

（1）「支給される」が63.7%

夏のボーナスは「支給される」の割合が63.7%と、前年比2.8P上昇した（図1）。「支給されない（18.4%）」「わからない（18.0%）」は前年よりやや低下した。

図1. 夏季ボーナス支給の有無

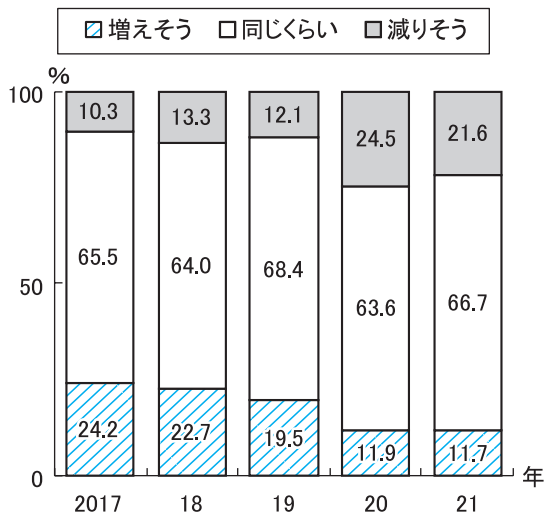


（2）増減見込みは「減りそう」が約2割

ボーナスの増減見込みは、「同じくらい（66.7%）」「減りそう（21.6%）」「増えそう（11.7%）」となった（図2）。

「減りそう」は前年比2.9P低下し、「同じくらい」が3.1P上昇した。

図2. 夏季ボーナスの増減見込み



2. ボーナスの見込み額

「10万円～30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満（46.5%）」が最も多く、「30万円～50万円未満（21.9%）」と続いた（図3）。

会社員は、「10万円～30万円未満（51.6%）」が最も多く、前年比2.5P上昇した（表1）。「10万円未満」「30万円～50万円未満」「50万円～80万円未満」の割合は、共に前年より低下した。

図3. ボーナスの見込み額

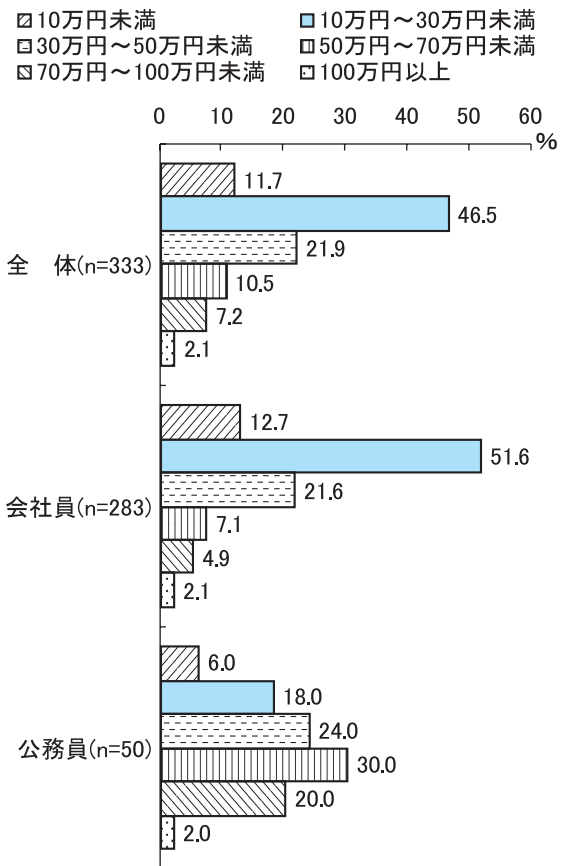


表1. 会社員の見込み額

（単位：%、P）

金額	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～80万円未満	80万円～100万円未満	100万円以上
2021年	12.7	51.6	21.6	7.1	4.9	2.1
2020年	13.5	49.1	24.7	9.1	2.2	1.5
前年比	▲0.8	2.5	▲3.1	▲2.0	2.7	0.6

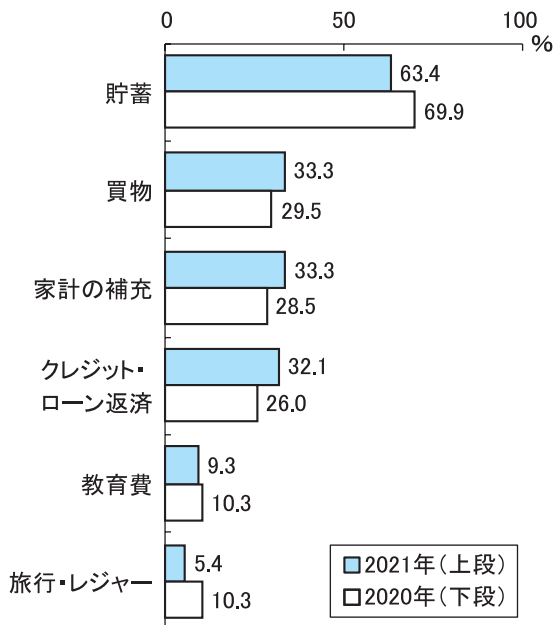
3. ボーナスの使いみち(複数回答)

「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは「貯蓄(63.4%)」が最も多く、以下、「買物(33.3%)」「家計の補充(33.3%)」「クレジット・ローン返済(32.1%)」と続いた(図4)。

前年比では「貯蓄(▲6.5P)」が低下し、「買物(+3.8P)」「家計の補充(+4.8P)」は上昇した。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



(1)「貯蓄」

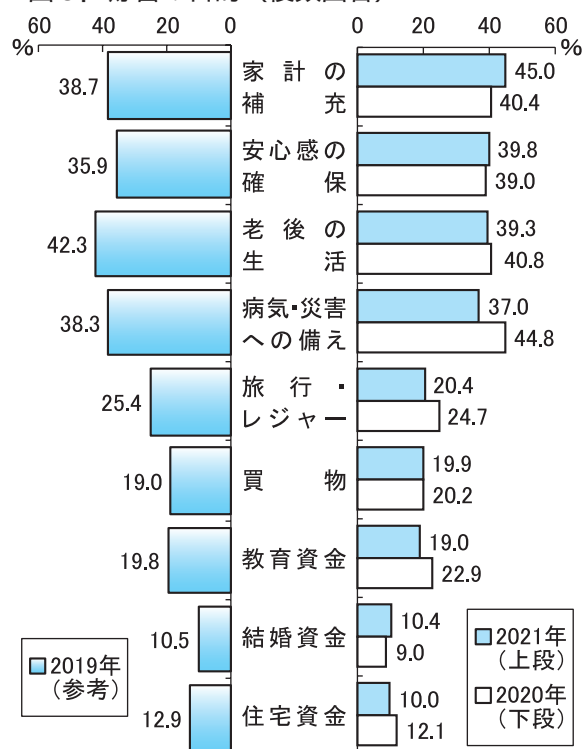
①貯蓄の目的(複数回答)

「家計の補充」が最多

貯蓄の主な目的は「家計の補充(45.0%)」が最も多く、「安心感の確保(39.8%)」「老後の生活(39.3%)」と続いた(図5)。

前年比では、「家計の補充」が4.6P上昇し、コロナの影響が無かった2019年夏季調査(38.7%)と比べて6.3P上昇するなど、生活防衛色が一層強まっている様子がうかがえた。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)

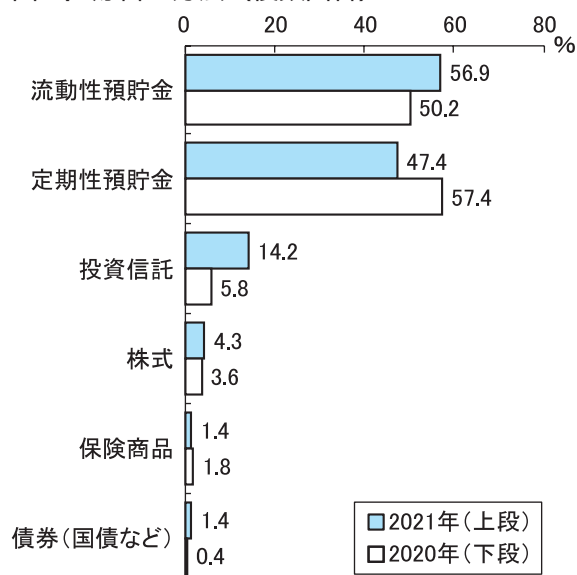


②貯蓄の方法(複数回答)

「流動性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、「流動性預貯金(56.9%)」が前年比6.7P上昇し「定期性預貯金(47.4%)」が同10.0P低下したことから、順位が入れ替わった(図6)。「投資信託(14.2%)」は同8.4P上昇した。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



（２）「クレジット・ローン返済」

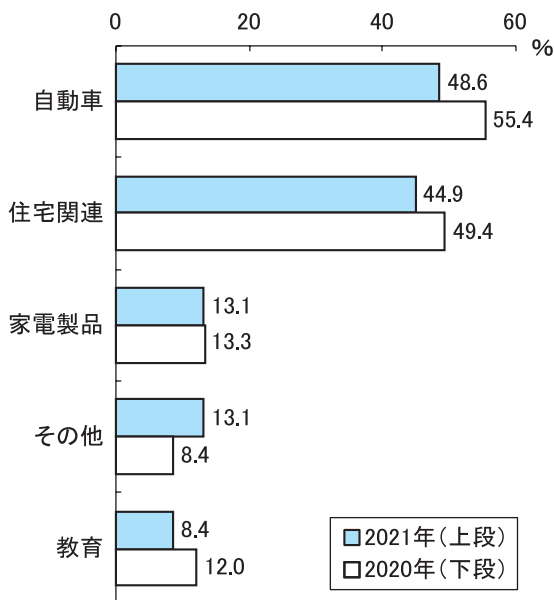
（複数回答）

「自動車」が48.6%

クレジット・ローン返済では「自動車（48.6%）」が最も多く、次いで「住宅関連（44.9%）」となった（図7）。

前年比では「自動車（▲6.8 P）」「住宅関連（▲4.5 P）」ともそれぞれ低下した。

図7. クレジット・ローン返済予定の内容（複数回答）



（３）「買物」

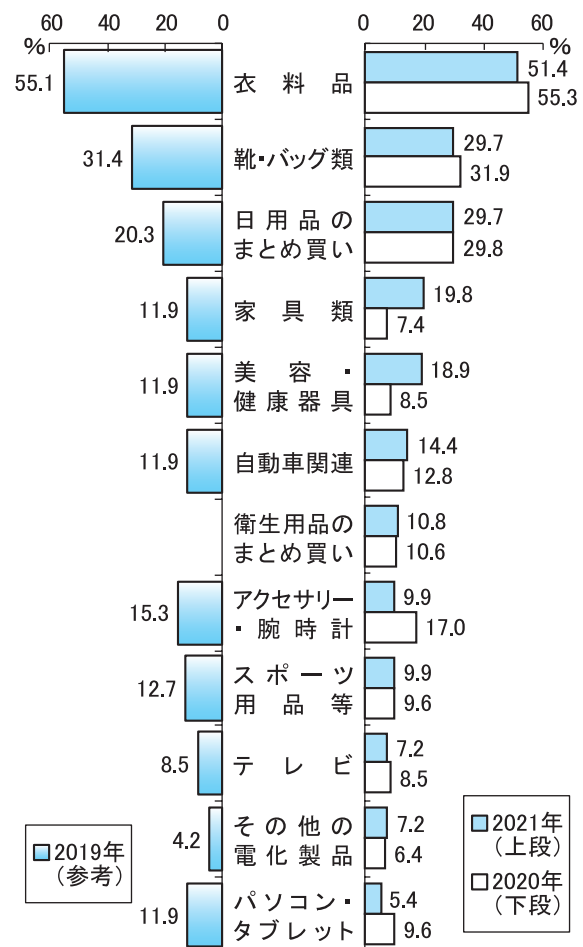
①購入予定品（複数回答）

「衣料品」が最多

購入予定品は「衣料品（51.4%）」「靴・バッグ類（29.7%）」「日用品のまとめ買い（29.7%）」となった（図8）。

前年比では「家具類（+12.4 P）」「美容・健康器具（+10.4 P）」が上昇し、2019年比でもそれぞれ約1割上昇しており、自宅で快適に過ごすための購入予定品の伸びが目立った。

図8. 購入予定品（複数回答）



※「スポーツ用品等」は「スポーツ・レジャー・アウトドア用品」の略

※「自動車関連」は、「自動車・バイク・カー用品」の略

②買物予定先の店舗形態（複数回答）

「通販・ネット販売」がトップ

買物予定先の店舗形態では、「通販・ネット販売（51.4%）」が最多で、「ショッピングセンター（大型店）（以下「SC」）（45.0%）」「ディスカウントストア（21.6%）」となった（次頁表2）。

居住地別では、「通販・ネット販売」は宮崎市（54.5%）、延岡市（43.8%）で多く、前年比もそれぞれ上昇した。都城市は「SC（40.9%）」が最も多く、同14.2 P上昇した。「家電量販店」は3市とも前年より低下した。

表2. 買物予定先の店舗形態（複数回答）

(単位：%)

買物先 居住地	通販・ ネット販売	S C	ディスカウ ントストア	家電 量販店	デパート
全 体	51.4	45.0	21.6	18.9	17.1
	44.7	51.1	26.6	27.7	26.6
宮崎市	54.5	47.7	20.5	18.2	18.2
	51.2	58.1	23.3	27.9	30.2
都城市	31.8	40.9	9.1	22.7	13.6
	40.0	26.7	33.3	33.3	20.0
延岡市	43.8	37.5	43.8	6.3	12.5
	40.0	50.0	40.0	30.0	10.0

回答者数 111 人

※上段：2021 年 下段：2020 年

③買物予定地（複数回答）

「宮崎地区（注1）」「都城地区（注2）」「延岡地区（注3）」で、地元を買物予定地とする回答が最も多く、「日南地区（注4）」、小林地区（注5）は、「宮崎市」が最も多かった（表3）。

「県外」は、「日南地区」を除く全地区で前年を下回り、コロナ禍における県独自の緊急事態宣言により、県外への移動自粛のうごきがうかがえた。

表3. 買物予定地（複数回答、居住地別）

(単位：%)

買物地 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県 外
宮崎地区 (注1)	98.1	5.6	1.9	1.9	1.9	1.9
	91.8	-	4.1	-	-	16.3
都城地区 (注2)	34.8	95.7	-	-	-	4.3
	40.0	93.3	-	-	-	20.0
延岡地区 (注3)	21.7	-	73.9	-	-	13.0
	39.1	-	60.9	-	-	30.4
日南地区 (注4)	71.4	28.6	-	57.1	-	-
	100.0	100.0	-	100.0	-	-
小林地区 (注5)	100.0	75.0	-	-	25.0	25.0
	66.7	16.7	-	-	83.3	50.0

回答者数 111 人

※上段：2021 年 下段：2020 年

- 注1) 宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡
 注2) 都城市、北諸県郡
 注3) 延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡
 注4) 日南市、串間市
 注5) 小林市、えびの市、西諸県郡

4. 最近の県外での買物動向

(1) 買物頻度

最近1年間の、県外九州5市への買物頻度は、全ての市で「1回」が最も高かった（表4）。

表4. 県外での買物頻度（複数回答）（単位：%）

頻度	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
1 回	54.4	45.0	52.0	43.8	55.3
	50.8	56.5	51.1	51.3	42.7
2～4 回	31.6	35.0	25.3	37.5	27.1
	34.6	39.1	32.3	32.2	36.3
5～9 回	5.3	15.0	14.7	10.4	10.6
	8.1	2.2	12.8	10.4	12.7
10回以上	8.8	5.0	8.0	8.3	7.1
	6.5	2.2	3.8	6.1	8.3

回答者数 85 人

※上段：2021 年 下段：2020 年

(2) 交通手段

県外九州5市への交通手段は福岡市、北九州市を除く全ての市で「乗用車」が約9割を占めた（表5）。「高速バス」は福岡市で約2割の回答があった。前年比では北九州市で「JR」が26.3 P 上昇し「乗用車」「高速バス」は共に14.6 P 低下した。

表5. 県外九州5市への交通手段（単位：%）

交通手段	福岡市	北九州市	大分市	熊本市	鹿児島市
乗 用 車	56.1	55.0	89.3	85.4	84.7
	61.6	69.6	94.0	93.0	91.7
高速バス	21.1	5.0	2.7	2.1	5.9
	22.2	19.6	3.0	6.1	1.3
J R	1.8	35.0	8.0	8.3	5.9
	4.3	8.7	3.0	0.9	6.4
飛 行 機	14.0	-	-	-	-
	8.1	-	-	-	-
B & S (※)	3.5	5.0	-	-	-
	3.2	-	-	-	-

回答者数 85 人

※上段：2021 年 下段：2020 年

※「B & S みやざき」の略称。Bus & Shinkansen の頭文字で、博多駅～新八代駅(熊本)～宮崎駅間を新幹線と高速バスで運行する

5. 今後の旅行・レジャーの行先 （複数回答）

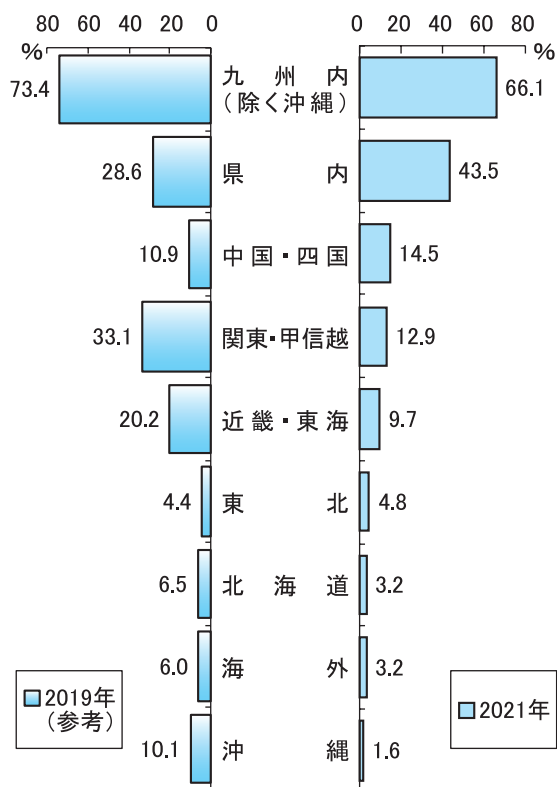
「九州内」が最多

今後の旅行・レジャーの行先は、「九州内（66.1%）」が最多で、「県内（43.5%）」「中国・四国（14.5%）」と続いた（図9）。

「関東・甲信越」「近畿・東海」は一部にコロナによる緊急事態を宣言した地域もあり、長距離移動を伴う旅行やレジャーを抑える様子が見え始めた。

※ 2020年の調査は、コロナによる緊急事態宣言が全国に発令された時期と重なり、当設問を行わなかったため、今回と2019年のグラフを掲載した

図9. 今後の旅行・レジャーの行先（複数回答）



6. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が63.5%

現在の生活状況は、全体では「変わらない（63.5%）」が最も多く、「悪くなった」は30.4%、「良くなった」が6.1%で、

生活状況D I（注6）は▲24.3となった（表6）。各項目でも、「変わらない」がそれぞれ最も多かった。

前年比では、「全体」が7.5 P悪化した（図10）。各項目別では、「レジャー・余暇等（▲44.7）」はコロナによる不要不急の外出自粛等で同13.1 P悪化するなど、マイナス幅の拡大がみられた。

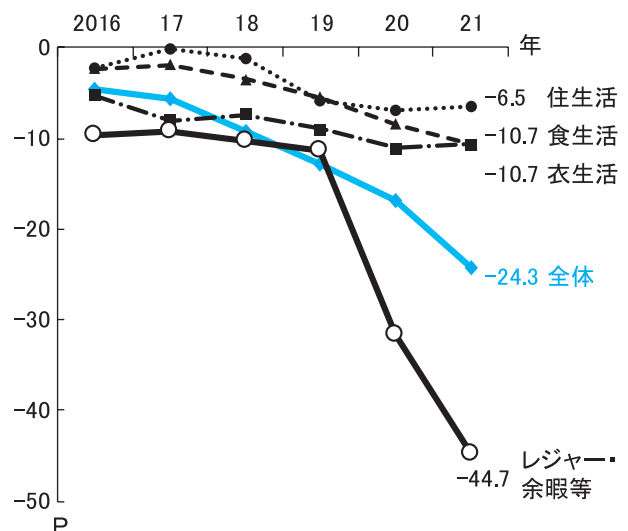
表6. 現在の生活状況（単位：%、P）

生活状況	良くなった	変わらない	悪くなった	D I
全 体	6.1	63.5	30.4	▲24.3
衣 生 活	4.8	79.7	15.5	▲10.7
食 生 活	5.7	77.5	16.8	▲11.1
住 生 活	9.4	70.6	20.1	▲10.7
レジャー・余暇等	12.0	67.6	20.4	▲8.4
住 生 活	7.1	79.3	13.6	▲6.5
レジャー・余暇等	7.3	78.4	14.3	▲7.0
レジャー・余暇等	5.0	45.3	49.7	▲44.7
レジャー・余暇等	7.1	54.2	38.7	▲31.6

※上段：2021年 下段：2020年

注6）D I＝「良くなった」割合－「悪くなった」割合

図10. 生活状況D Iの推移



7. 現在の物価状況

現在と前年の物価を品目別に比較した状況は、「娯楽・趣味」「被服・履物」「外

食費」を除く品目でD I（注7）がプラスとなった（表7）。

品目別では、「光熱水道費（+34.2）」が最も高かった。長引くコロナ禍により、テレワークや休校等による在宅時間の増加から、光熱水道費の出費も増えたと考えられる。2位以降は「交通費」を除きD Iが前年より低下した。

表7. 品目別物価状況 (単位: %, P)

品目	物価 高くなった	不変	安くなった	D I	
				今回	前年
光熱水道費	41.0	52.1	6.8	34.2	29.9
食品(生鮮食品を除く)	37.6	56.7	5.7	31.9	40.3
日用品	26.0	68.2	5.8	20.2	24.0
耐久消費財	19.6	76.2	4.2	15.4	17.7
嗜好品(酒等)	25.4	63.0	11.6	13.8	15.0
保険料	18.2	75.2	6.7	11.5	14.8
医療費	21.5	68.0	10.4	11.1	14.2
教育費	20.2	70.4	9.4	10.8	15.9
通信費	23.1	62.4	14.5	8.6	16.6
住居費	10.9	84.3	4.7	6.2	8.0
交通費	23.2	59.4	17.4	5.8	▲ 0.4
家具・家事用品	16.3	73.2	10.5	5.8	6.0
娯楽・趣味	19.5	57.3	23.3	▲ 3.8	▲ 3.4
被服・履物	12.5	67.9	19.6	▲ 7.1	2.1
外食費	18.9	43.2	37.9	▲ 19.0	▲ 5.5

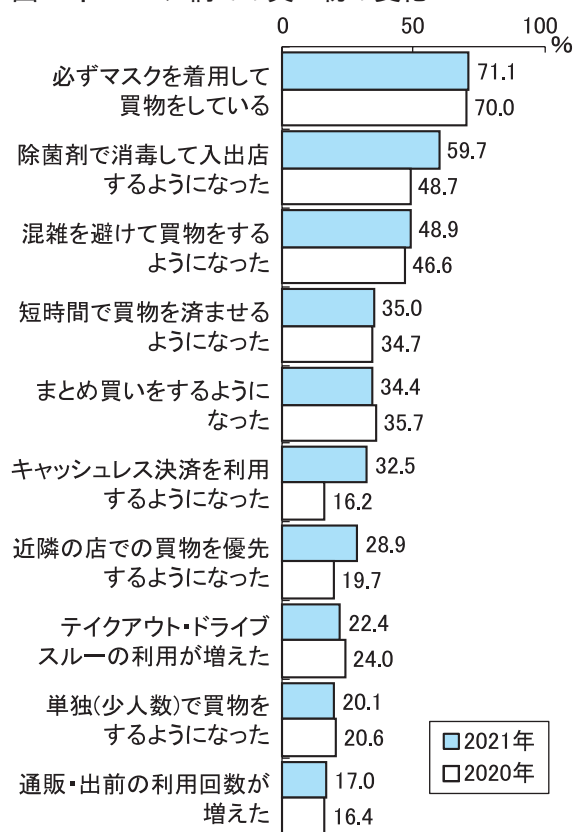
注7) D I = 「高くなった」割合 - 「安くなった」割合

8. コロナ禍での買い物の変化

コロナ禍での買い物の変化では「必ずマスクを着用して買物をしている(71.1%)」、「除菌剤で消毒して入出店するようになった(59.7%)」など衛生に気を配る行動が上位に挙がった(図11)。

前年比では「キャッシュレス決済を利用するようになった(32.5%)」が16.3P上昇し、現金を介さない非接触決済の意識が強まった。

図11. コロナ禍での買い物の変化



9. まとめ

今回の調査は、前年並みのボーナス支給額を見込む回答が増え、使いみちは、家計の補充を目的に貯蓄する回答が多かった。

買物は「家具類」「美容・健康器具」、買い物先は「通販・ネット販売」、物価は「光熱水道費が高くなった」など“巣籠り”の影響をうかがえる回答が増え、コロナを意識した消費行動が強まった。生活状況D Iは前年より悪化し、「レジャー・余暇」は不要不急の外出自粛により更に悪化した。今後は、ワクチンの普及でコロナが収束に向かい、再び消費が活性化されることを期待したい。

(勝池)